残雪環境で活動していたアオダイショウ

徳田龍弘・照井滋晴・吉川夏彦

アオダイショウ（*Elaphe climacophora*）は北海道，本州，四国，九州のほか，国後，奥尻，佐渡，伊豆大島，新島，式根島，神津島，隠岐，対馬，壱岐，五島，薩南などの諸島に生息する（千石，1996）．今回は北海道上川郡下川町の残雪上で活動するアオダイショウを観察したため，報告する．

観察は 2015 年 4 月 24 日午後 12：42 で，北海道上川郡下川町班渓の五味温泉付近の林道脇であった．観察環境は混交林内で，枝打ち後の枯れた枝を積んだ場所付近の雪上を這って逃走する姿（図1）が確認された．確認されたアオダイショウは雄で全長 130cm の成蛇であった（図 2，図 3）．天候は曇り，気温は 15．3℃で，周囲の樹木の枝が揺れるくらいの強い風が時々吹いていた．

ガータースネークの一種（*Thamnophis sp.*）のように雪の残る場所で集団繁殖行動するヘビも知られる（Martha Holmes，Michael Gunton，2009）が，残雪環境でのアオダイショウの活動についての具体的な報告資料は見つけられなかった．

発見地点から最寄りの観測点である下川の気象データ（気象庁，2016）（表1）によると，発見前日である 2015 年 4 月 23 日からの最高気温は 2 日連続で平年値を大幅に上回り，18℃前後に達する状態であった．一方で最低気温は両日ともに氷点下まで下がっていたため，一日を通して高温の状態ではなかった．下川の観測点の積雪は 2015 年 4 月 17 日以降 0cm となっていたが，観察地周囲は山地のため，日の当たる場所では斑状の残雪状態，日陰では 30cm 程度の積雪が残存する状態であった．

筆者の徳田は 2009 年から観察確認したヘビの出現状況を記録している（未発表）が，アオダイショウが残雪環境で活動しているのを観察した記録はなかった．また 2009 年以前にも確認したこともなかった．このような経験から珍しい観察例と思われた．過去の観察では春や秋の寒い時期に確認したアオダイショウでも，周囲には雪が残っていたことがなかったため，雪解けが完全に済んで安定的に暖かい日が続くと行動を開始する種類ではないかと推測していたが，今回は違ったため今後の検討資料として気象データとともに記録，報告することとした．

図１　残雪上を這って逃げるアオダイショウ

図２　捕獲直後のアオダイショウ

図３　アオダイショウ全体像

この個体は標本番号 NSMT-H9043 として国立科学博物館筑波研究施設（茨城県つくば市天久保 4-1-1）に収蔵されている．

引用文献

気象庁．2016．気象統計情報．〈http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html〉．（2016/1/15 アクセス）

Martha Holmes，Michael Gunton．2009．BBC EARTH ライフ episode 2 Reptiles and Amphibians：ソニー・ピクチャーズ・エンタテインメント．[AV 資料（Blu-lay）]

2015年 月 日	最高気温 (℃)	最高気温 平年値 (℃)	最低気温 (℃)	最低気温 平年値 (℃)	最深積雪 (cm)	最深積雪 平年値 (cm)	平均風速 (m/s)	最大風速 (m/s)
4/15	9.9	9.1	0	-2.4	1	36	3.3	7
4/16	3	9.4	-0.1	-2.2	1	33	3.3	5.9
4/17	9.4	9.7	0.2	-2	0	30	2.5	4.8
4/18	11.1	10	-0.6	-1.9	0	27	2.4	6
4/19	6.3	10.3	1.1	-1.7	0	24	2.6	6.2
4/20	8.4	10.6	-1.6	-1.5	0	21	1.5	4.3
4/21	6.5	10.9	1.5	-1.3	0	18	3.2	7.1
4/22	12.5	11.2	0.5	-1.1	0	15	4.3	9.1
4/23	18.7	11.5	-2.6	-1	0	13	2.4	7.5
4/24	17.8	11.8	-1.1	-0.8	0	11	3.8	11.8

表1　発見日から過去10日間の下川の気象データ抜粋

千石正一．1996．アオダイショウ．P. 97．千石正一，疋田努，松井正文，仲谷一宏（編）．日本動物大百科5 両生類・爬虫類・軟骨魚類．平凡社．東京．

エゾサンショウウオの越冬状況の記録

堀　繁久

エゾサンショウウオ（*Hynobius retardatus*）の越冬状況についての記録は少ないようで，筆者が確認できた文献記録としては，佐藤・松井（2013）の北海道のサンショウウオたちの中で「越冬する場所はさまざまで，繁殖する池のすぐそばであったり，あるいは山麓であれば陽当たりの良い南斜面であったりする」という記述と，池の縁での越冬場所の写真が唯一であった．

筆者は，2015年12月6日に新冠町の沢の斜面で地下浅層に生息するメクラチビゴミムシを探索中に，地下から越冬中のエゾサンショウウオを複数個体確認したので，発見場所の地形と越冬状況を記録する（写真1-3）．

現場は，幅1mほどの小さな沢が流れる谷筋で，エゾサンショウウオが確認できたのは，沢から15mほど斜面を上がった場所である．斜面の下の谷底には早春にエゾサンショウウオが産卵に利用しそうな水たまりがあった．その谷斜面の中程を掘ってみると，腐葉土層の下に粘土混じりの小砂利の層があり，その下に表面に粘土の付着したやや脆い岩盤層が存在し，その岩盤の隙間から最初のエゾサンショウウオが見つかった．その後，昆虫探索中に同じような環境から次々とみつかり，合計7個体の様々サイズのエゾサンショウウオが地下から見つかった．越冬が確認された場所は，ほぼ

写真1　調査地風景（左側の斜面中腹が確認箇所）

写真2　地下から掘り出された越冬中のエゾサンショウウオ中型個体

写真3　地下から掘り出された越冬中のエゾサンショウウオ小型個体